

富屋地区
シンボルマーク

みんなで 仲良くやっぺ ふるさと富屋

111号

2024 (令和6年)
9月発行

広報とみや

富屋の自然・歴史・文化財ガイド養成講座



西根屋台

富屋生涯学習センター主催の「富屋の歴史・文化財ガイド養成講座（全5回）」が6月から7月にかけて開催され、地区内外から34名が参加しました。今回の講座は、富屋西部の西根と田中の2地区の自然や歴史、文化財に焦点を当てた内容で「ホタルの生態」、「西根・田中の文化財」、「徳次郎石の歴史と文化」の講義と「西根・田中の文化財の見学」、「徳次郎石採石場跡と上田中の石蔵見学」の2回の現地研修となっていました。

参加者の皆さんからは、「地元の方に案内していただき徳次郎石採石場跡や徳次郎石蔵、彫刻屋台などの素晴らしい文化財を間近に見ることができて学びの多い講座でした。」「また参加させていただきます。」などの嬉しい声が届きました。この声には素晴らしい文化財等に出会えた喜びとともに地域の方々が徳次郎石の蔵や文化財の公開に協力してくださったり、徳次郎石採石場跡までの山道が歩きやすいように事前に草を刈り取ってくださったりして参加者の皆さんを温かく迎えてくださった地域の皆さんへの感謝の気持ちも含まれていたと思うのです。地域の皆さん、ご協力ありがとうございました。



徳次郎石の蔵



徳次郎石採石場跡

自治会だより

音を途絶えさせない～中徳次郎屋台囃子会～



音を途絶えさせない。20数年前決意して再興させた中徳次郎屋台囃子。勢いのある喧嘩囃子。演者も客も巻き込んで血が沸き立つような高揚感と一体感が魅力である。最大の見せ場は、3年に1度の徳次郎智賀都神社夏祭り。六カ郷が激しく技を競い合う盛大なぶっつけ。年間を通じては、4月敬老会。6月お囃子競演会。8月の「ふるさと宮まつり」は、今年で21年目。欠かすことなく参加している。12月は冬渡祭。様々な活動の中、音を繋いできた。月に一度の練習会では1時間途切れることなく鳴り響く。それらの音は想いそのものである。受け継がれてきた先人の想い。今、私たちが途切れさせてはならない。日々の練習に励み研鑽を積み、音に真摯に向かい仲間と積み重ねていく。それは確実に次世代へと継承されている。20数年前に小さかった子供たちが今、大きな力になっている。そして新たな子供たちへ受け継いでいる。

(徳次郎中町自治会長 岡田 守二)



笑顔とチームワークが輝る 富屋地区球技大会



6月30日(日)に、富屋地区体育協会主催による球技大会が富屋小学校校庭・体育館・富屋地区市民センターを競技会場として開催され、下町・中町・北部・東部・西部・南部・山王団地・富屋地区市民センターの8チームが参加しました。種目は昨年同様で、ボウリング・ソフトバレーボール・グランドゴルフ・ソフトバレーボール・卓球の5種目でした。

若い人からご高齢の方まで、幅広い年齢層の皆さんが集い、楽しく交流を深めることができた球技大会でした。

体育協会長からは、「勝敗に関係なく、皆さんのフェアプレイ精神とスポーツマンシップは素晴らしいものでした。特に、試合中の笑顔とチームワークがとても印象的でした。次の大会でまたお会いしましょう。」との講評をいただきました。

結果は以下のとおりです。

総合優勝 下町 ・ **準優勝** 南部 ・ **第3位** 中町



富屋・篠井地域包括支援センター

悩みごと1人で抱え込んでいませんか？

富屋地区市民センターの南にある旧徳次郎保育園舎が富屋・篠井地域包括支援センターです。宇都宮市の委託で運営しており、主任介護支援専門員をはじめ専門職5名で対応に当たっています。主に介護予防の取り組みや困り事の相談を受けています。



☆認知症や介護状態になりたくない。でもどうすれば…

認知症予防・介護予防に大切なのは「きょうよう」と「きょういく」と言われています。今日用（きょうよう）があって今日行く（きょういく）所があることが元気の源！包括支援センターには看護師2名が在籍しており、健康教室やサークルの支援を行っています。また、各種講座の紹介も行っています。



☆私の悩みは相談できるの？

元気に自宅で暮らし続けたい
足腰のリハビリに通いたい
お金がなくて困っている
近所にゴミ屋敷がある

**すべて相談
できます！**

サークルに参加したい
夫が認知症かもしれない
悪徳商法に騙された
成年後見制度に興味がある

高齢化社会となり困りごとが多様化しています。包括支援センターだけで解決できない問題は責任をもって専門機関へお繋ぎします。まずはお気軽にご相談ください。

災害に備えた富屋地区防災訓練を実施



想定した訓練でした。

初めに、自治会ごとに避難困難者の確認などの**初期動作訓練**を行いました。確認後、自治会長がショートメールで本部へ状況を報告し、市民センターに避難終了後は避難者の状況などを報告する**情報伝達訓練**を行いました。

次に、全員で富屋分団による放水実演を見学しました。その後、参加者は3班に分かれて、AEDを使用した応急救護訓練、家庭用プランターやブルーシートを活用した簡易水防訓練、水消火器による初期消火訓練、煙道体験を行いました。参加の皆さんは、どの体験にも積極的にかかわり、訓練への熱意が感じられました。

最後に、富屋分署の方より、①情報収集し集約することは大切な訓練であること。②体験については反復訓練をし、体験を今後に生かしてほしいこと。③暑さや体の不調は早めに対応すること。安全で快適な生活をしていきましょう。との講評をいただきました。訓練を通して得た知識や技能を活用して、災害に備えていきましょう。



ふるさと再発見⑨



徳次郎遊郭

徳次郎は江戸時代、日光街道が開通すると、上・中・下に3つの宿が設けられ、江戸日本橋を起点に18番目の宿場町として栄えました。宿場には多くの旅籠が連なり、天保年間（1830-43）には3宿を合わせると72軒の店がありました。これは県内宿駅中、最も数が多かった小山宿の74軒に次ぐ軒数でした。旅籠の中には茶屋娘や遊女を雇う店も多く、郷土民謡「徳次郎節」は、越後出身の茶屋娘の口ずさんだ歌が元になったといわれています。

明治36年（1961）、客に飲食・遊興させる店が、中徳次郎から上横倉方面に向かう場所に集められました。これが徳次郎遊郭と呼ばれた区域です。遊郭は新しい土地に建物が建てられたことから、新地とも呼ばれました。遊郭の入口には大門があり、敷地内に4軒の店（富永楼、逸富楼、亀楼、斎藤楼）がありました。店では女性の接客により、歌や踊り、宴会で賑わいました。昭和32年（1957）、法律施行に伴い閉店となり、遊郭は姿を消しました。（文化財調査員 池田貞夫）

「とみや女性学」を開催しました

「とみや女性学」は、女性が自分の魅力を発揮して、いきいきと活躍するための知識を学んだり、地域で活躍する仲間を作ったりするための講座で、毎年6月～8月に全3回行っています。今年は、20名の参加がありました。第1回は6月19日に「お家でできるストレッチ」、第2回は7月11日に「黄ぶな張り子」、第3回は8月8日に「今日から実践“3Rでエコライフ”」とバラエティーに富んだ楽しい内容となっています。



7月11日(木)に開催された今年度2回目の「とみや女性学」では、栃木県伝統工芸士であり江戸時代から続く郷土玩具の伝承に尽力されている小川昌信さんを講師に招き、黄ぶな張り子の絵付けをしました。無病息災を願う縁起物になった由来を学んだうえで、自分だけの一品に心を込めて色付けをする貴重な体験ができました。

地域の女性の皆さん！来年度はぜひ参加してみませんか。楽しいですよ！！

婦人会とみどり会共催で 研修旅行に行ってきました

7月11日(木)に婦人会とみどり会共催で研修旅行に行ってきました。22名の参加がありました。朝7時半に市民センターを出発し、一路群馬方面に向かいました。まず、星野富弘美術館を見学し、酒蔵（誉国光）・道の駅川場田園プラザを経由して原田農園で昼食を摂りました。帰路に、めんたいパーク群馬に寄り、最後の買い物をして帰りました。

車内では、楽しく語り合い、ビンゴゲームで盛り上がり、1日とはいえあっという間に時間が流れました。今回の研修旅行で、会員同士の親睦がさらに深められ、今後の活動を協力しながら進めていくためのよい機会となりました。



富屋地区まちづくり連絡協議会 ホームページを開いてみよう!!

富屋地区まちづくり連絡協議会の最新の情報をパソコンや携帯電話で見ることができます。ただし、インターネットの接続やQRコードを読み取ることができるように設定しておく必要があります。

ホームページを開く3つの方法

- ①『富屋地区まちづくり連絡協議会』と入れて検索する。

富屋地区まちづくり連絡協議会 🔍 検索

- ②携帯でQRコードを読み込む。

「広報とみや」表紙に掲載



- ③アドレスバーに『tomiya.org』と直接入力する。

富屋地区のデータ (令和6年8月末日現在)

世帯数	1,600世帯
総人口	3,298人
男性	1,549人
女性	1,749人

今後の主な事業計画

10月26日(土)	ファイト!とみや2024
11月3日(日)	とみやふるさとまつり
12月1日(日)	とみやそばまつり
12月1日(日)	徳次郎宿ツアー

編集・発行

富屋地区まちづくり連絡協議会
〒321-2116
宇都宮市徳次郎町80番地2
(富屋地区市民センター内)
☎028-665-1663